

町の課題について

I. 東京大学果樹園跡地利用町民意見募集結果の概要について

1. 平成24年6月11日から平成24年9月30日までに行った町民意見募集結果の将来構想における提案概要は、以下のとおりとなっております。

東京大学果樹園跡地利用 町民意見募集結果概要

●実施期間：平成24年6月11日から平成24年9月30日

＜将来構想＞

意見	意見数	意見	意見数
農園	7	イベント広場	2
公園	7	学校	2
果樹園・オリーブ	5	子どもが遊べる施設	2
太陽光発電	4	憩いの場	2
カフェ	3	その他	12
温泉	3		

農園	イングリッシュガーデン、貸し農園(クラインガルテン)	男性	50代
	収穫体験農場(野菜・果物・花卉) 野菜・果物・切花の収穫を楽しむ(有料)	女性	70代以上
	ぶどう畑にし、収穫時に有料で摘み取りができるようにする	男性	70代以上
	観光農園にも利用し、果物の収穫の楽しさを味わってもらう。芝の広場を作り、子連れの親子が遊べる空間も併設する	男性	70代以上
	貸し農園	女性	—
	小田原厚木道路の上のみかん畑だったところ、4,000平方メートルも当面は家庭菜園として住民に貸し出す	男性	—
公園	町営の農業試験場・コミュニティスペースとして利用	中里	男性
	管理公園の施設をつくる。名称：(仮名)二宮竹文化保存竹林公園	男性	—
	大きな公園とし二宮町を「安全でゆとりある 子育ての町」とアピールして新たな住民を増やす	—	—
	農菜園のあいだに遊歩道を設け、町民が散歩できるようにする。また、小田原厚木道路の上は、眺望を活かして町民が屋外で食事をしたり、果樹園を眺めたりできるエリアとする	男性	—
	自然の景観を活用して、町民の憩いの場である自然公園	女性	70代以上
	災害時の長期に渡る避難所として利用できるよう、敷地確保して緑の公園として活用する。長期計画により鉄筋の耐震建物で避難場所として利用できる建築を願う	男性	—
果樹園・オリーブ	立地条件、活用状況、設備予算などを吟味し、必要なければ急がず風致公園が一番無難	女性	60代
	市民で運営できるスペースの庭園があると良い	女性	60代
	小田原厚木道路の空地はオリーブ畑とする	男性	70代以上
	「オリーブの町」にのみや」と名打つならば、町営オリーブ農園	女性	60代
	土地をほぼそのまま有効利用し、果樹や野菜を育て、その「農産物」や「苗」を町民に提供する	男性	—
	吾妻山とセットで果樹園としてアピール	男性	50代
太陽光発電	全国唯一のリンゴとみかんが収穫出来る農園を東大が閉園したことをメインテーマに果樹公園として整備し小中学生のフィールドワークに利用できる設備を整えていく	男性	70代以上
	町の電気を作り、町民はそこから電気を購入する	—	—
	箱ものをつくるのは得策ではない。太陽光発電を継続させてもよい。一部この電力を利用して熱帯果樹を育てる事業を展開する。オリーブと複合させて、フレッシュ・フルーツタウンとして全国的に定着させる	男性	—
	小田原厚木道路の上はソーラー発電所として利用する	男性	—
カフェ	建物をリフォームして、レストランやお土産を販売する。(cafeも)	男性	50代
	建物をリフォームしてCAFELレストランやおみやげ屋、ハーブや果物を販売する店	女性	—
	建物は補強し、1階を喫茶店、2階はギャラリーやミニライブ会場とする	女性	60代
温泉	近くの温泉スタンドを使って公共の湯として銭湯をつくる(一部民間委託)	女性	70代以上
	となりの温泉スタンドを買って、温泉施設	女性	—
	温泉スタンドを買って、小さな温泉をつくる	男性	50代
イベント広場	高齢化社会対応に向け周辺地域の近未来の再開発への展開も視野に入れ、オリーブ関連を基軸とした「総合アウトドア イベント広場」を創造する	男性	—
	定期的「ファーマーズ・マーケット」を開き、農産物や特産品を販売する。また宿舎を改修して集会所として町民に開放したり、イベントや展示会に利用	男性	—
学校	学校教育の一元化と効率化を図るため、小中一貫校を建設する	男	70代以上
	養護学校	女性	—
子どもと遊べる施設	子どもが雨でも晴れでも思い切り遊べる場所	女性	30代
	小田原のマロニエのような雨の日でも子どもが集まれる無料の施設	女性	—
憩いの場	うつくしい植栽の町民ガーデンとして観光客がくぐる憩いの場	女性	—
	ラディアン地域を行政文化施設地区として一体活用し、当該地は自然を生かした町民憩いの場	男性	70代以上
その他	収穫された果物や野菜を使って料理教室や栽培教室を開く。町民や子どもたちに向けて食育を兼ねたカルチャーセンターのような施設とする	男性	—
	町営キャンプ場、バーベキュー場、レクリエーション施設(子どもと遊べるもの)	男性	40代
	循環社会モデルパーク「二宮版」ダッシュ村計画」	男性	—
	中規模人口地域医療「ドクタービレッジ」計画」	男性	—
	住民が主役の共育まちづくりを進めるまちなか遊学文化村構想	女性	—
	オリーブを主体にみかん等二宮町の特産物の総合開発の拠点とする	男性	—
	発展型として、農産物の加工や発酵醸造施設をつくり特産品を開発する	男性	—
	バラを植え「湘南バラ園」として有料で運営する	男性	70代以上
	入浴施設、センター施設などは長期計画で、最終形態に向けて完成させる	女性	—
	災害時の仮設住宅敷地用地と、災害時ヘリポート用地として27,000平方メートル確保する	男性	—
	二宮インターからも至近であることから「道の駅」のような施設として町外からの来訪者に特産品をアピールする展開も考えられる	男性	—
	屋外活動ができるようにする(バーベキュー、アスレチック的な遊び場)	男性	60代

Ⅱ. 町の現状と将来について

1. 人口について

- 人口ピークの平成11年に比べ、平成47年推計では約28%の人口減少となる。

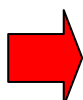
平成11年（人口ピーク）
人口 31,019人



平成47年（20年後）
人口 22,287人（28%減少）

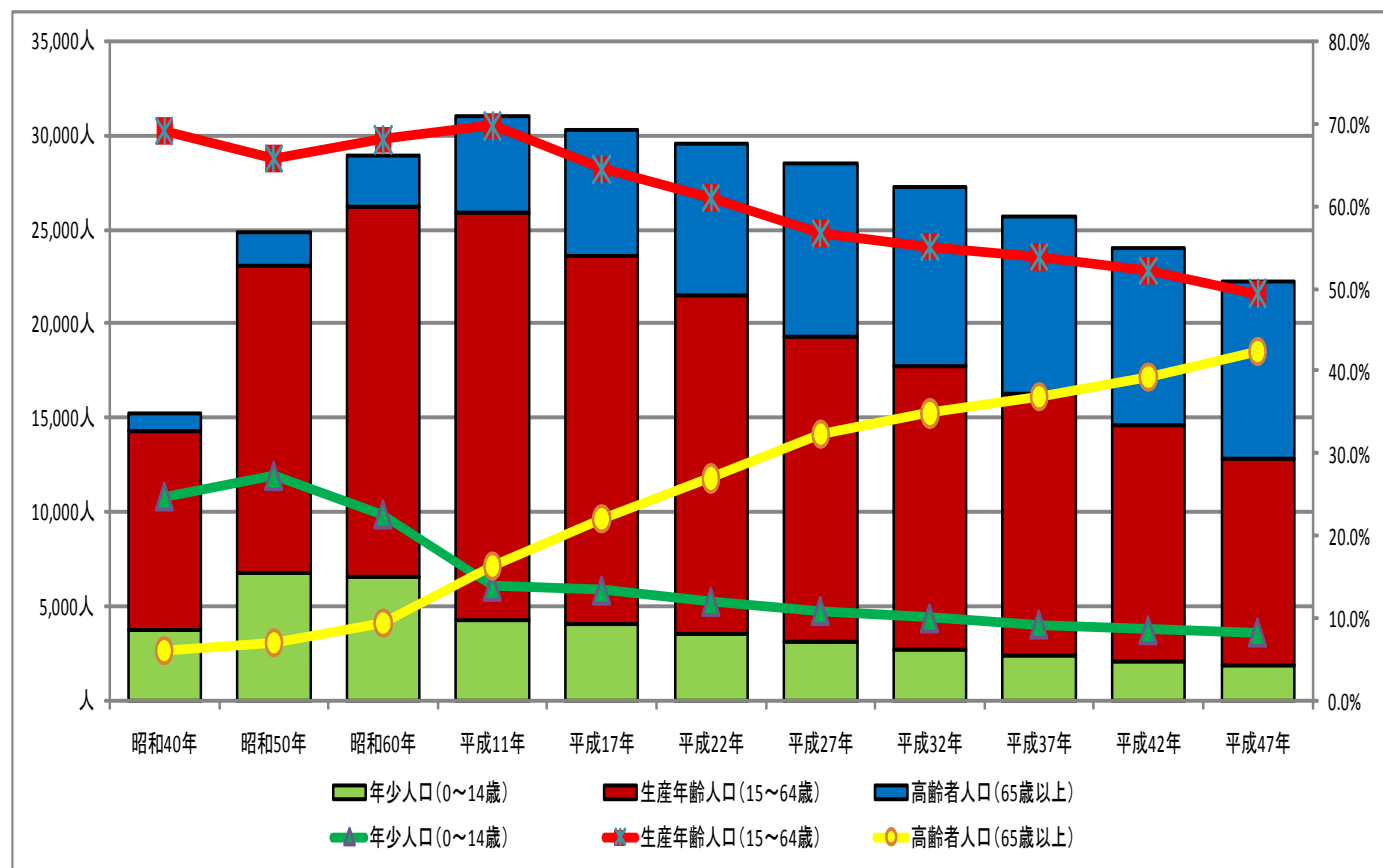
- 人口減少に加え、少子高齢化が更に進み、年少人口（0歳～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）が減少し、高齢者人口が増加し、超高齢化社会となる。

平成11年（人口ピーク）
年少人口 4,300人（13.9%）
生産年齢人口 21,631人（69.7%）
高齢者人口 5,088人（16.4%）



平成47年（20年後）
年少人口 1,855人（8.3%）
生産年齢人口 11,004人（49.4%）
高齢者人口 9,428人（42.3%）

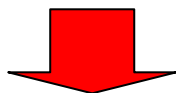
	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成11年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
年少人口（0～14歳）	3,777人	6,775人	6,537人	4,300人	4,054人	3,555人	3,121人	2,738人	2,393人	2,070人	1,855人
生産年齢人口（15～64歳）	10,532人	16,345人	19,687人	21,631人	19,497人	17,994人	16,201人	15,022人	13,860人	12,554人	11,004人
高齢者人口（65歳以上）	937人	1,739人	2,712人	5,088人	6,696人	7,973人	9,237人	9,505人	9,483人	9,430人	9,428人
年少人口（0～14歳）	24.8%	27.3%	22.6%	13.9%	13.4%	12.0%	10.9%	10.0%	9.3%	8.6%	8.3%
生産年齢人口（15～64歳）	69.1%	65.8%	68.0%	69.7%	64.5%	61.0%	56.7%	55.1%	53.9%	52.2%	49.4%
高齢者人口（65歳以上）	6.1%	7.0%	9.4%	16.4%	22.1%	27.0%	32.3%	34.9%	36.8%	39.2%	42.3%
総人口	15,246	24,859	28,936	31,019	30,247	29,522	28,559	27,265	25,736	24,054	22,287



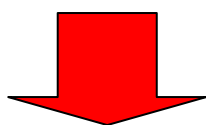
2. 児童・生徒数について

- 町内の小中学校における児童・生徒数は昭和 60 年に比べ、平成 22 年に半減。
- 更に平成 47 年には昭和 60 年に比べ、約 1 / 4 まで減少する。

昭和 60 年
児童生徒数 4,631 人

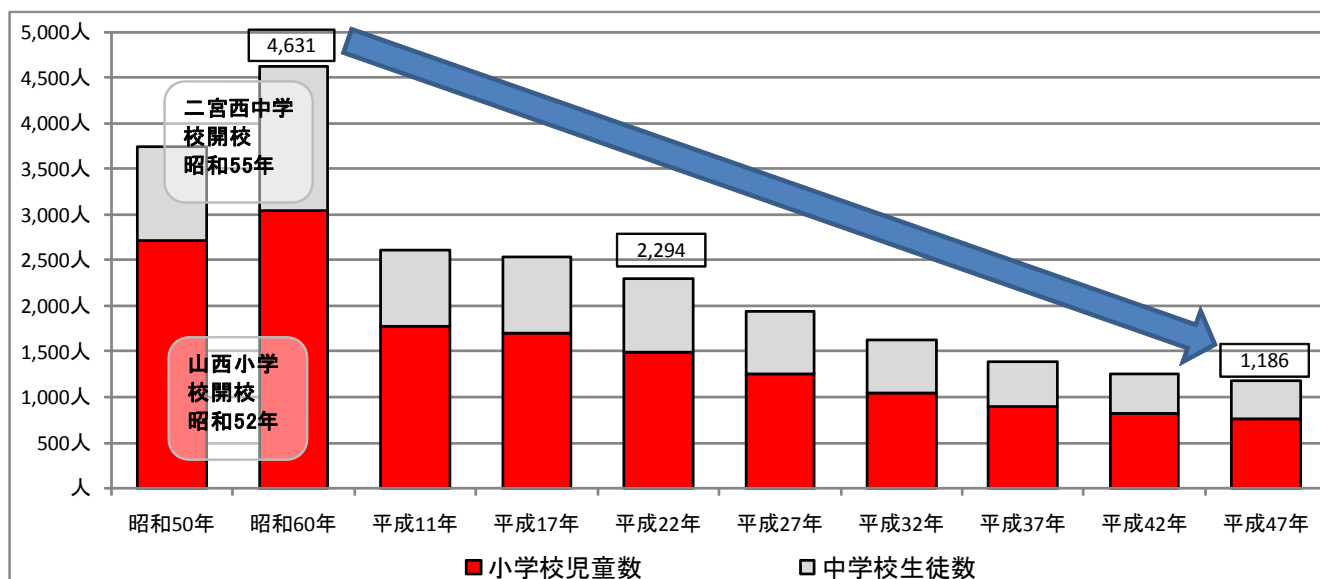


平成 22 年の児童生徒数は 2,294 人
約 1 / 2 に減少



昭和 60 年に比べると平成 47 年では・・・
1 / 4 に減少！！

	昭和50年	昭和60年	平成11年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
小学校児童数	2,717人	3,043人	1,773人	1,703人	1,494人	1,253人	1,050人	901人	814人	767人
中学校生徒数	1,031人	1,588人	841人	830人	800人	684人	573人	492人	444人	419人
児童生徒数合計	3,748	4,631	2,614	2,533	2,294	1,937	1,623	1,393	1,258	1,186



3. 財政について

- 人口の減少と併せて町税収入は減少する傾向となる。

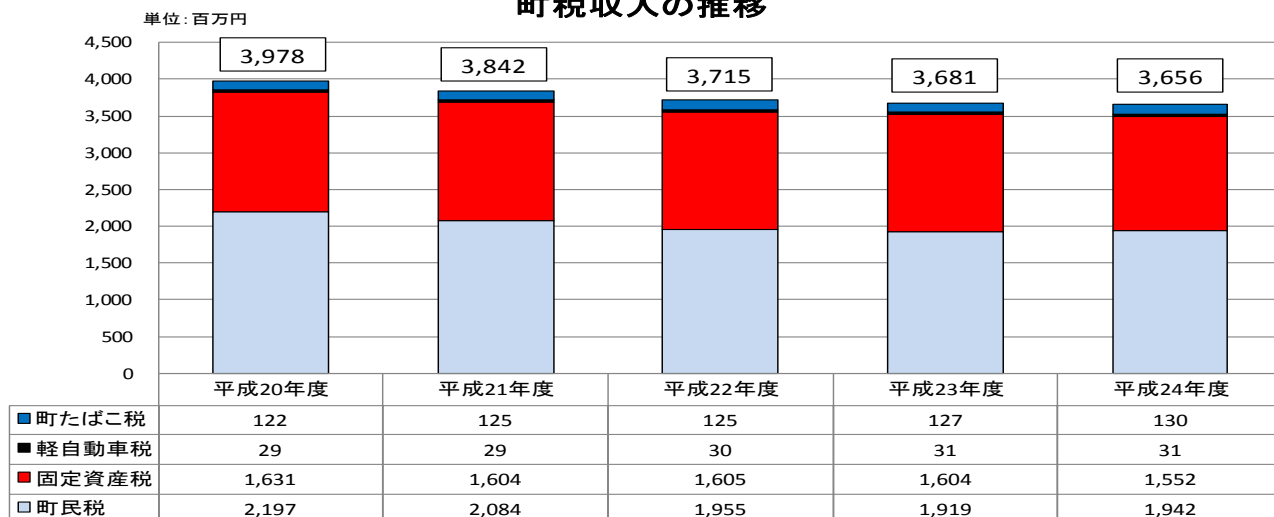
平成 20 年度
町税収入 3,978 百万円



平成 24 年度
町税収入 3,656 百万円

町税収入は
約 10% の減

町税収入の推移



- 歳出では社会保障関係経費は年々増加傾向にある。

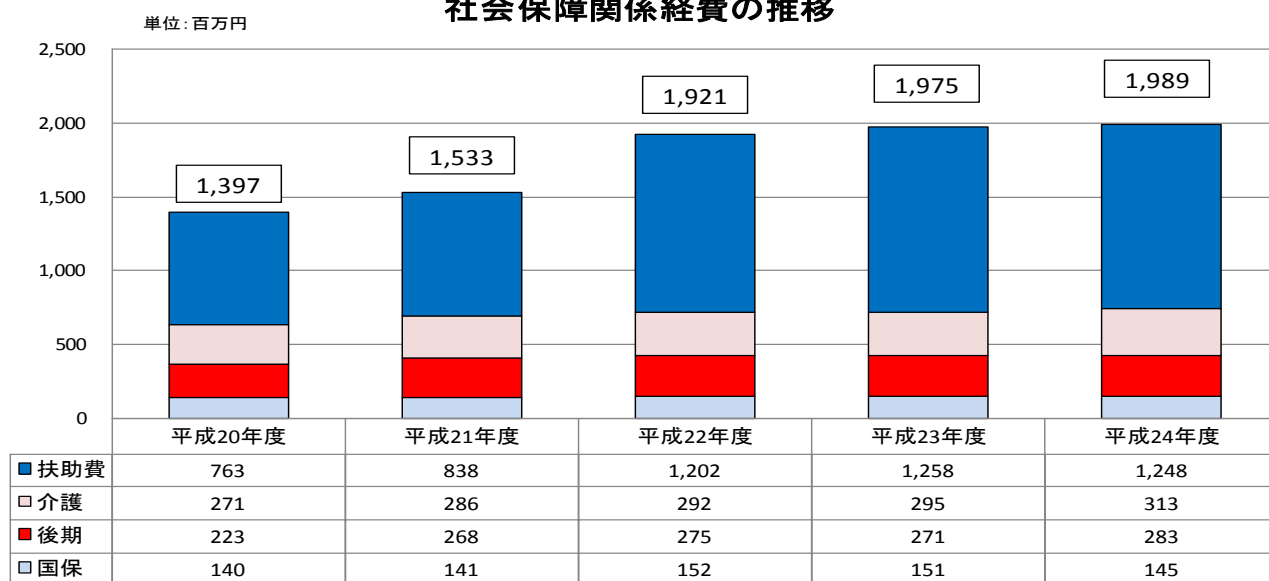
平成 20 年度 1,397 百万円



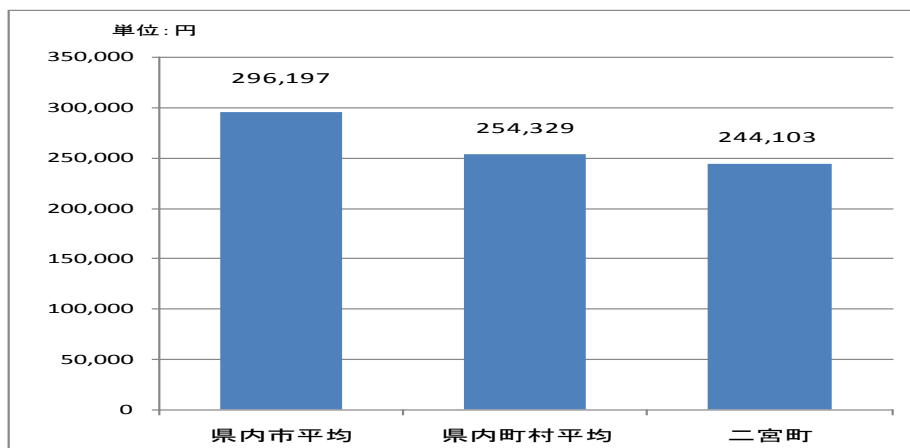
平成 24 年度 1,989 百万円

約 40% の増

社会保障関係経費の推移



- 平成 24 年度の公債費は
県内自治体と比べ、
平均を下回っている。



4. 公共施設について

(1) 現状

二宮町が保有する公共施設の建築物は 65 施設あり、その延床面積は 67,824 m²となっています。そのうち、一般的に建築物の寿命とされる 30 年以上のものが約 65%

(43,817 m²) を占めており、更に新耐震基準（昭和 56 年以前）が適用される以前の建築物が 70% (47,474 m²) あり、11%が耐震診断未実施の施設となっています。

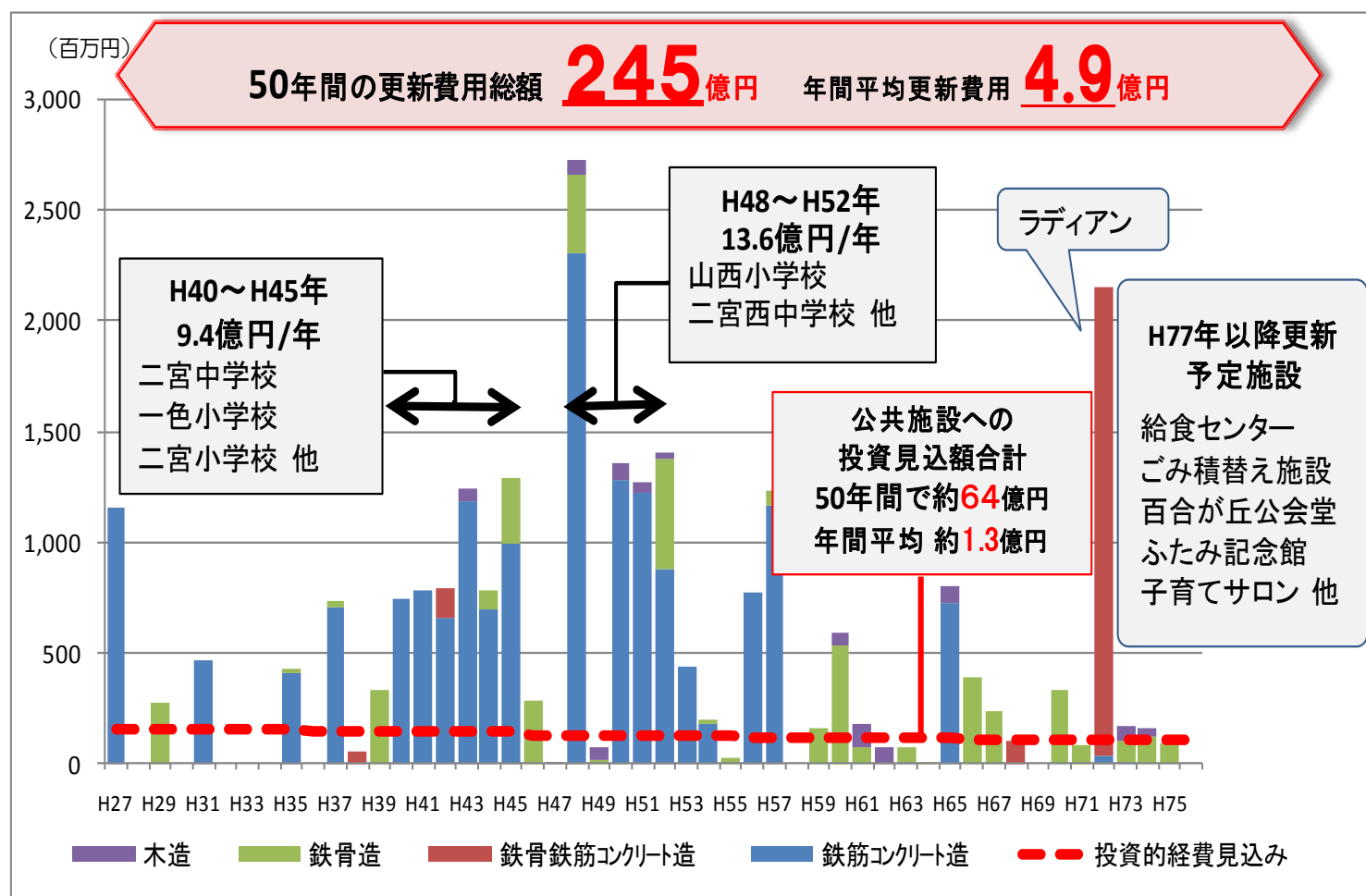
二宮町の公共施設の老朽化は全国平均の 43%と比較して高い水準となっており、大規模改修や建替え等を集中的に行う時期が迫っている状況となっています。

(2) 更新経費

現状のまま公共施設を保有し続けた場合、20 年後の平成 45 年には築 30 年以上を経過する建築物が 95%まで増加します。

全ての施設の耐用年数を 60 年と設定した場合、今後 50 年間の更新コストは 245 億円（年平均 4.9 億円）となる一方、準備可能な更新経費の推計は 64 億円（年平均 1.3 億円）であり、大幅な財源不足になると推計されます。

特に二宮中学校や一色小学校などの建替えが集中する平成 40 年から平成 45 年では年平均 9.4 億円、山西小学校などの建替え時期を迎える平成 48 年から平成 52 年では年平均 13.6 億円の建替え費用が必要となる推計となっています。

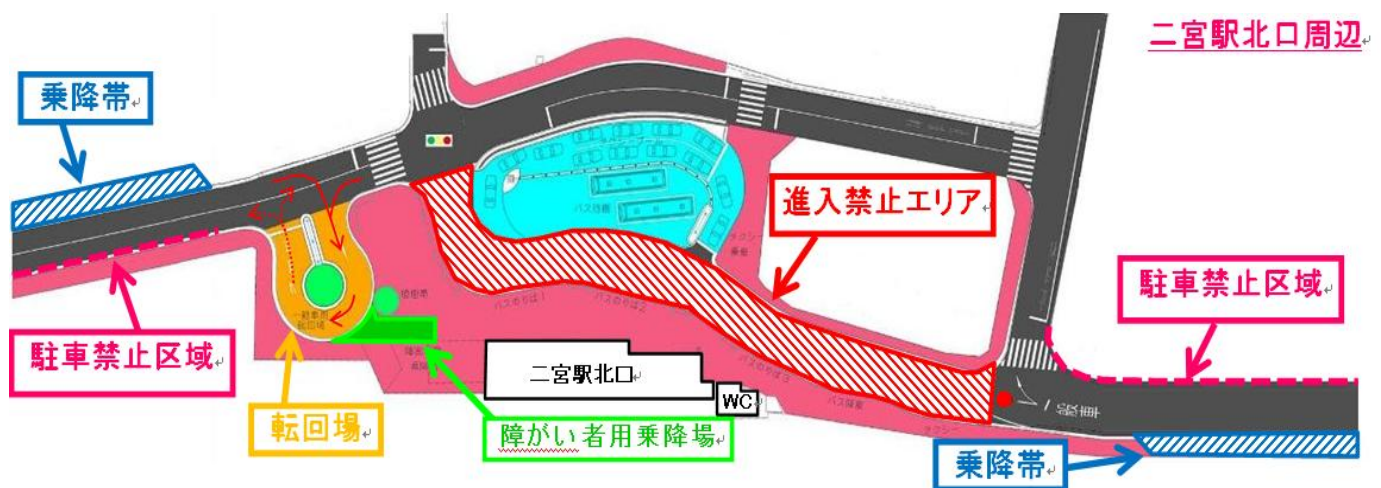


Ⅲ. その他の個別事業について

1. 北口駅前広場について

二宮駅北口駅前広場は、町道 27 号線の拡幅工事の完成に併せて暫定整備工事を行い、釜野方面から終日車両が進入できるようになりました。現在、暫定整備後の検証を実施していますが、現時点での課題は以下のことが挙げられます。

- 大部分の用地を東日本旅客鉄道㈱が所有しており、本格整備を行うには買収する必要がある。
- 一般車の広場内の進入が規制されたことによる駐車違反車両の増加
- 新たに設置した転回場内での駐停車
- 将来的な北口駅前計画の範囲の検討（駅前町民会館の移転・廃止や二宮小学校の移転等）
- 北口駅前全体の混雑緩和のための旧県道 2 号線（北口商店会通り）の時間帯一方通行の解除等の検討
- 北口駅前に集中する公共施設（役場・町民センター・武道館・駅前町民会館）のあり方の検討

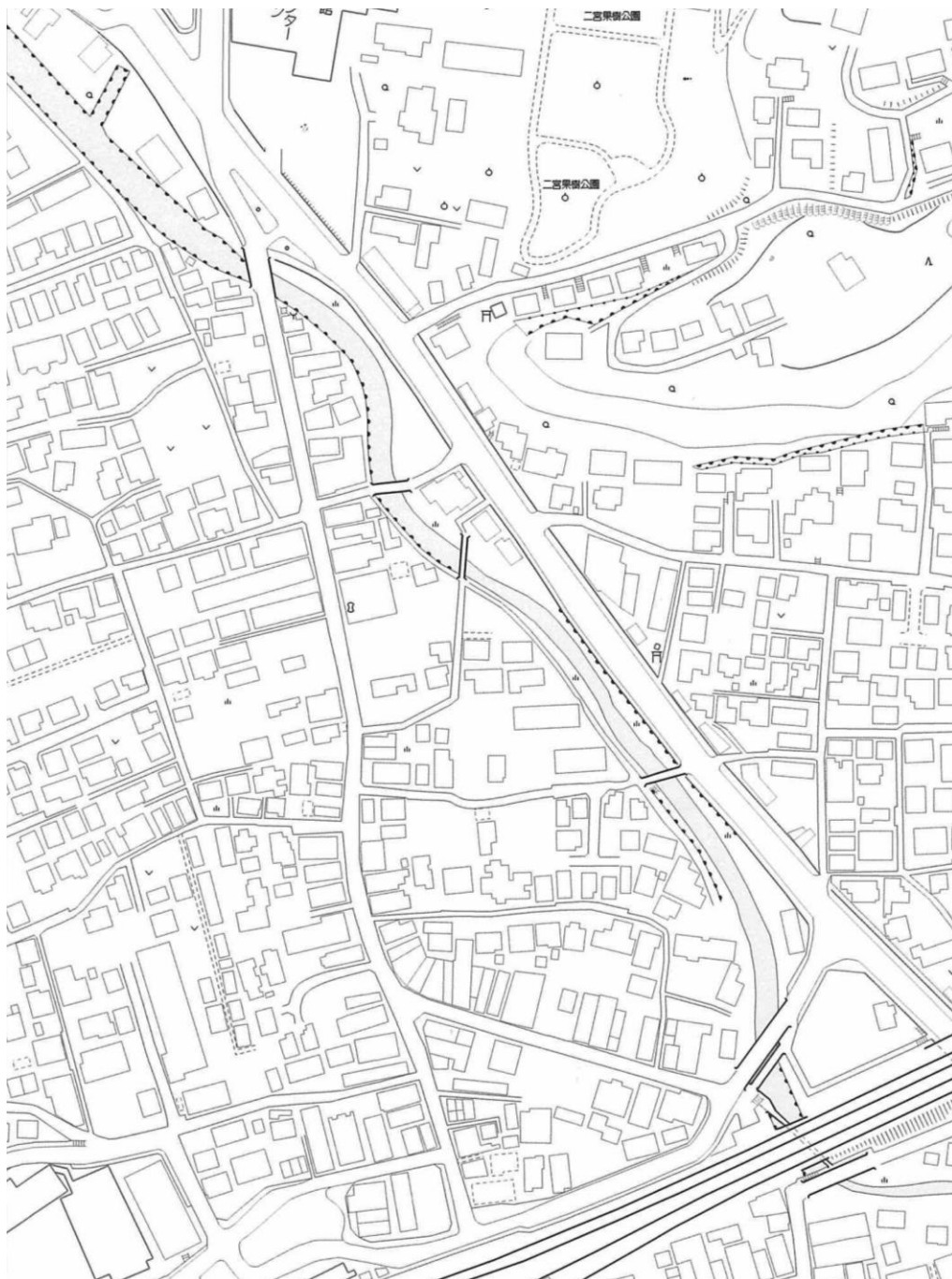


2. 路線バスルートの変更と商工会館の移転について

現在の路線バスは旧県道 2 号線を入口、商工会館前の交差点を出口として運行をしていますが、旧県道 2 号線は朝夕の通学時間だけでなく、昼間の時間帯においても歩行者や自転車の往来が多い状況であるため、路線バスの出入口を全て商工会館前とすることで、駅周辺の混雑を解消することができると考えます。

そのための課題は以下のことが挙げられます。

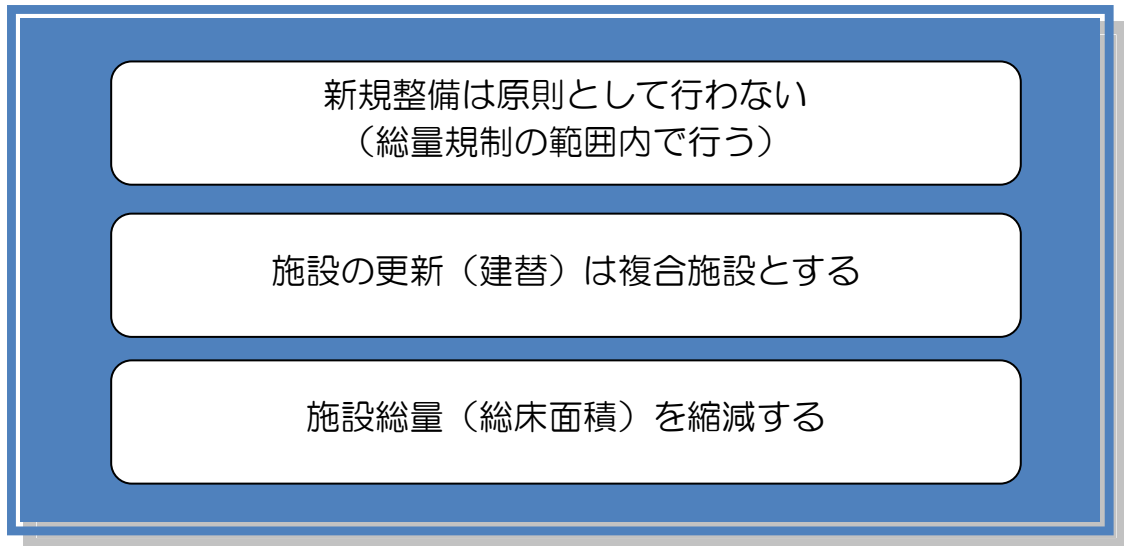
- 商工会館を移転し、県道 71 号線の右折レーンの確保及び交差点改良工事の検討
- 旧県道 2 号線へのバスの乗り入れが無くなることにより、終日一方通行あるいは交互通行など多様な交通動線の検討



3. 公共施設の統廃合について

二宮町の公共施設は老朽度が全国平均（43％）よりも高く（65％）、耐震補強工事が済んでいない建物もあります。今後の公共施設の統廃合・再配置の検討については「二宮町公共施設再配置に関する基本方針」に示しているとおり、公共施設三原則を遵守し、検討することが重要となってきます。

【公共施設三原則】



4. 増え続ける保育ニーズについて

人口減少と少子高齢化が進む中で、核家族化の進行や共働き世帯の増加等により、一時的に保育ニーズが高まっているのが現状です。ここ数年では、増大する保育ニーズに対応する必要がありますが、前述のとおり将来的には年少人口は減少することが予想され、効率的かつ柔軟的な対応策が求められています。個別の課題は以下のことが挙げられます。

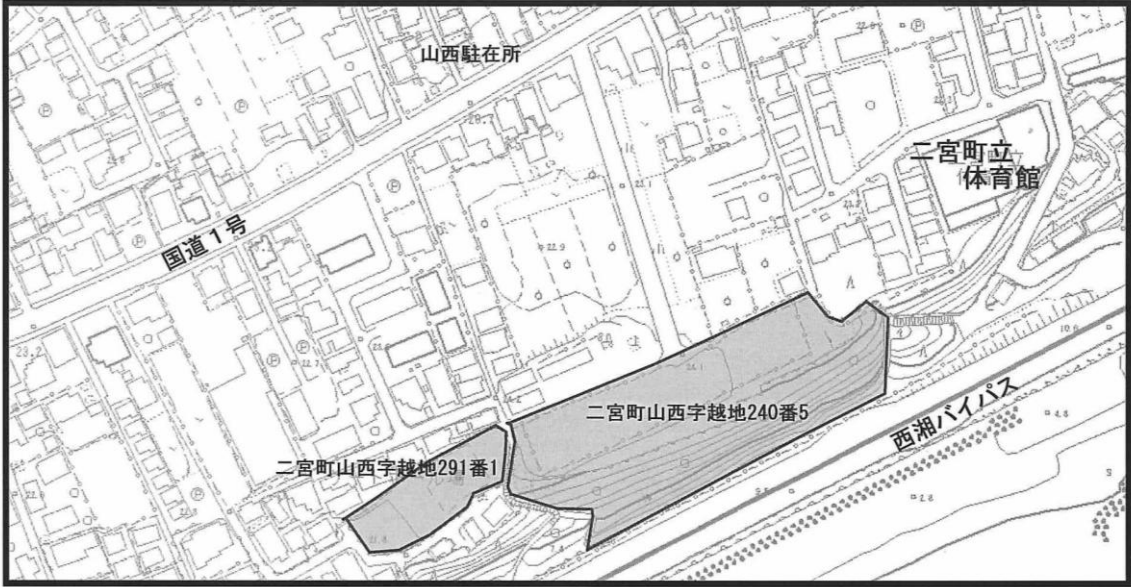
- 百合が丘保育園の老朽化及び立地条件を含めた検討
- 一時的な保育ニーズに対応する緊急対応策

5. 未利用町有地の活用について

町が所有する大規模な未利用町有地は以下のとおりであり、既に利用目的が見込まれているものもあります。

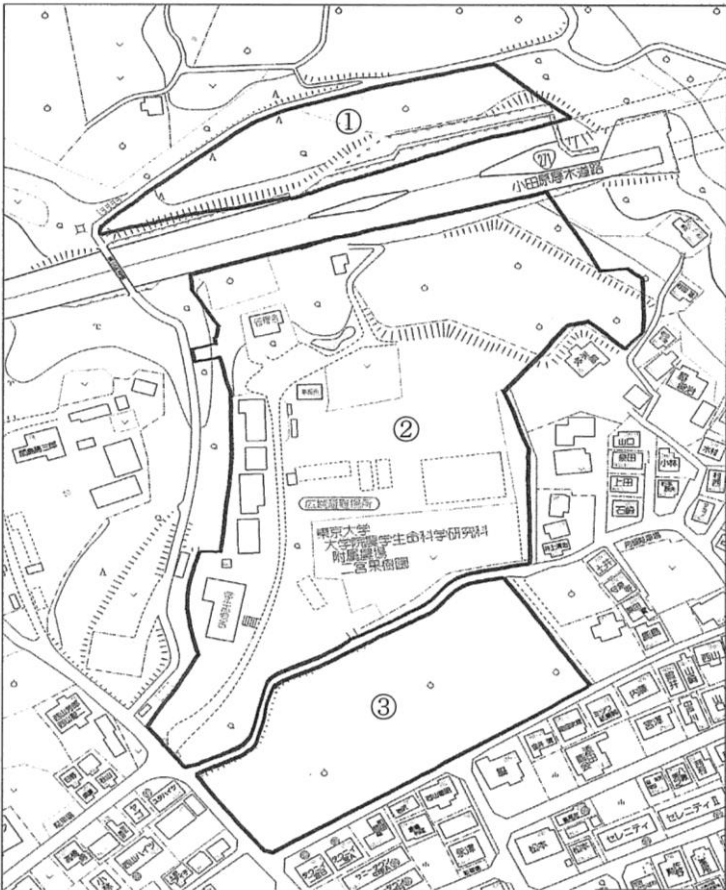
- 国立小児病院跡地 ⇒ 子育て関連施設としての利用
- 二宮字正泉寺 ⇒ 過去は役場駐車場（吾妻山を含む）などの検討がされている
- 東京大学果樹園跡地 ⇒ 将来的な土地利用について検討が必要

国立小児病院跡地 位置図 S=1800



敷地面積（公簿）	二宮町山西字越地240番5	8,213.17㎡
	二宮町山西字越地291番1	1,647.95㎡

【 東京大学果樹園跡地の概要 】



- 所在地 中郡二宮町中里518番地
- 面積 37,625.21㎡
(内訳) 上記区域図① 4,298.67㎡
 〃 ② 24,861.09㎡
 〃 ③ 8,465.45㎡
- 地目 学校用地（現況地目畑）
- 都市計画 市街化調整区域